

平成 26 年度 南小学校区 第 2 回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

10月6日(月)に開催された「南小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
中田町北町内会	消防団第 17 分団	南小学校 PTA
中田町南自治会	三島市立青木保育園	三島南中学校
南本町新御殿町内会	南幼稚園	三島南中学校 PTA
青木町内会	南幼稚園 PTA	地域包括支援センター三島
ウイステリア三島青木自治会	私立のびる幼稚園 PTA	玉川子ども会
民生委員・児童委員	南小学校	

※当日参加者 21 名

会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」等について、参加者の意向を伺いました。



【会場アンケート結果】

テーマ別会議
①中学生や保護者が訓練に参加しやすい方法を考えよう！・・・・・・・・・・9人
②防災体制充実のためにも、幼稚園・保育園と地域の連携を高めるためには？・・5人
③子ども会やPTA活動を継続・発展していく方法を考えよう！・・・・・・・・・・6人
④その他・・・・・・・・・・0人

※テーマ①と②の2グループに分かれ話し合いました。(別紙「テーマ別会議まとめ」参照)

協議会設立の意向
①協議会に向けた取組みを進めたい・・・・・・・・11人
②連絡会を継続したい・・・・・・・・・・8人
③その他・・・・・・・・・・2人
協議会設立を検討する場への参加意向
①参加したい・・・・・・・・・・16人
②参加できない・・・・・・・・・・5人
③その他・・・・・・・・・・0人

テーマ①「中学生や保護者が防災訓練に参加しやすい方法を考えよう!!」

(テーマ①班参加人数:15名)

●地域の防災訓練で期待する中学生の役割●学校の訓練に地域がはいりこむ方法●地域の防災訓練を魅力的にするアイデア●保護者が中学生に誘いかける方法●中学生が直接地域の防災訓練に出られるアイデアなどについて意見を出し合いました。

★中学生の防災訓練への参加には保護者の声かけが必要

- ・保護者が参加／声をかけないと中学生は参加しない
- ・小学生は保護者参加必須
- ・幼小中を巻き込んだ場→MLS誕生
- ・小学生は保護者がいないと参加しない
- ・小学生は訓練に参加する
- ・小学生から防災への興味を持ってもらう
- ・保護者の防災訓練の教育→しっかり考えることを浸透させる
- ・顔見知りになっていても中学生になると参加しなくなる

★中学生の現状は？

- ・中学生は反抗期（親が言ってもだめ？）／扱い難しい
- ・中学生は部活が大事
- ・部活があり日曜は無理
- ・中学校は証明書を出してくれたが、中学生は行事と重なり出席できない
- ・参加証（あっても中学生の参加少ない）
- ・8、9年前強制的に参加指導していた時期があった
- ・社会科の授業の一環→中学生の参加多数
- ・中学生はまだ守ってもらう立場
- ・中学生は自分で自分の身を守る意識が大事

- ・富田町 10 月末防災訓練実施予定
- ・町内会で防災訓練への参加が増えている？ どうしているのか？



★学校の訓練に地域の方が参加してほしい

- ・学校では色々な想定の外、避難訓練実施 →見て地区の方から意見をいただきたい
- ・学校内での訓練を地区の方に見ていただく



★地域の防災訓練の魅力づくり

訓練内容の充実

- ・メニューのマンネリ化（毎年同じメニュー）
- ・メニューのマンネリ化→市で指導してほしい
- ・炊き出し／火起し→調整（今の中学生はガスと電気だけがエネルギー）
- ・統一すると大雑把な訓練になるのでは（町内だときめ細やかな訓練可能）

各町内に訓練の伝統がある

- ・町内だときめ細やかな訓練になる
- ・町内会の実情もそれぞれ異なる→それぞれの地域に合った役割を考える（コミュニケーション）
- ・地域の中の意思疎通の場作り
- ・地域のコンセンサスが大事

コーディネーターの役割は？

- ・コーディネーターが学校と地域をつないでほしい

★行政の役割

- ・行政から学校へ参加を指導してほしい
- ・危機管理課で訓練メニューを考えてほしい
- ・行政がもっと前に出て行政・町内会・学校の連携を指導する
- ・行政は地域のシステム作り（任期2年にするなど）
- ・全ての防災委員の任期年数を2年以上にする

- ・中学校では参加指導しているが、中学生の役割は何？
- ・中学生に何を期待しているのか明確にする



★中学生が地域の訓練に参加するには？

- ・友達を一人連れてくる！
- ・魅力ある給食活動を行う



★中学校から中学生への働きかけ

- ・中学校が防災訓練に参加するよう指示する
- ・地域訓練を社会科の授業の延長にしてほしい



★訓練日統一

- ・中学生の都合に合わせた日程が大事
- ・部活動の大会以外は調整可能
- ・12月に訓練実施という話は？
- ・昨年、訓練日統一の話題あり



★防災訓練における中学生の役割とは？

即戦力になる

- ・大人のサポート（補助）参加し学んでもらう
- ・老人が多いので老人の手助け、力仕事
- ・子供たちのリーダー
- ・中学生は力もあるし動きも早いので即戦力
- ・災害時に主要戦力となる→中学生が主役
- ・特に災害発生後は中学生の役割大きい
- ・訓練参加で余裕が出る（消火・トイレの組立・食料の用意・いろいろな場所づくり等）



中学生が自ら考える

- ・中学生は体力その他様々な個性がある
- ・何なら出来るのか中学生が考えて行動する
- ・大人目線ではなく中学生目線で考える
- ・防災に対する意識／防災の必要性
- ・企画から意見を取り入れ自主性を高めていく
- ・参加することで役割がわかる
- ・体験が大事

役割を固定する必要はないのでは？

中学生は力になる
中学生に参加させたい

★防災訓練に中学生が参加してほしいという地域の真意とは？

- ・訓練で顔を合わせることが大事
- ・小・中学生に興味・関心を持ってもらう
- ・中学生の参加少ない→地域にとって不安
- ・安全は子供と地域の方が顔見知りになることから
- ・地域全体で子育てする意識を持つ

- ・児童の時期から防災意識を育て、中学生の役割として何を期待しているのか、地域の中ですりあわせをしていく。そのための訓練でもある。
- ・中学生に防災訓練に参加してもらうためには、日程を中学生の都合に合わせてから。

テーマ②「防災体制充実のためにも、幼稚園・保育園と地域の連携を高めるには？」

(テーマ②班参加人数：6人)

幼稚園・保育園と地域の連携を高める方法について、●日ごろからのコミュニケーションづくり●子どもの見守りを通じた連携●防災活動を通じた連携など意見を出し合いました。

★日ごろからのコミュニケーションづくり★

■まずは園をPR

- ・地域にも園の活動を知ってほしい。
- ・廃品回収、ベルマークなど地域の協力を仰ぎたい。
- ・幼稚園の場所を知ってもらう為にも、お祭り(10/26開催)などの行事に参加してもらいたい。(のびる幼稚園)



OPTA 活動を知ってもらう「お便り」等の回覧

○お祭(イベント)を一般開放とする。
⇒但し不審者の心配があり、園によっては立入り許可書や名札が必要な場合がある。

■あいさつを交わし合う

- ・やはり1番はあいさつ(子どもも保護者もご近所も)
- ・子どもがあいさつ運動をする。

○園で地域を散歩する時、出会った地域の方に気軽に声をかけたり、挨拶をする。



■地域の方を園にご招待

- ・すぎなの園、佐野学園、三島さくら、南小デイ教室と交流。年間計画あり。(南幼稚園)
- ・月一回幼稚園で遊ぼう会。未就園児と在園児のふれあい。(南幼稚園)
- ・毎週火曜日 10:00~12:00 園庭開放。毎月第4水曜日 15:00~育児相談(青木保育園)
- ・園の行事への招待(お知らせしてもなかなか集まらない…。日程などで折り合いがつかないのか?)

■園から地域に出向く

- ・ご近所へ畑の収穫物を持ってごあいさつを実施(普段のコミュニケーションづくりとして)
- ・地域(各町)の行事(お祭り)等に参加できないか? ⇒地域の行事と日程調整が必要

○園児が外に出る機会を増やす。(老人ホーム訪問、地域行事など)



発展

つながり強化

★子どもの見守りを通じた連携★

- ・老人会の方に散歩する時、「子ども見守り隊」のタスキをかけていただきたい。
- ・子育て支援ボランティアに参加していただく。草取や、畑づくりを実施。(窓口：長寿介護課)



○「子ども見守り隊」のタスキ、子育て支援ボランティアの活動を広める。

★防災活動を通じた連携★

- ・中学校と合同訓練を実施
- ・広域避難所(南中)は遠く、園の中で待機しなければならない。また御殿川の増水時も危険。⇒近くに助けに来てくれる方がいると安心。
- ・地域、ご近所で助け合う仕組みができるとよい。

○地域の防災訓練に園の職員が参加する。(6町合同訓練、地域の防災会議など)

